

# 沖縄県の農林水産業の概要

## 特徴・取組

沖縄県は、東西約1,000km、南北約400kmに及び、大小約160もの島からなっている。

亜熱帯地域の温暖な気候と、広大な海に囲まれた地理的特性を有しているが、他方で台風の常襲など厳しい側面もある。温暖な気候や琉球王朝の文化を活かした観光が主力産業となっている。

沖縄県の産業構造は、県内総生産の産業別割合を国内総生産と比較すると、第1次産業が同程度、第2次産業が低く、第3次産業が高いことが特徴である。

離島部においては、就業者数の約15%が第1次産業に従事しており、地域の雇用を支えている。

沖縄県内各地で、地域や島ごとの土壌や自然環境を活かした農林水産業が営まれている。

沖縄県の農業生産額は、ここ2年減少傾向であったが、令和6年は909億円と増加傾向に転じた。このうち、畜産物は367億円（40%）を占めており、うち肉用牛は147億円（16%）を占めるなど、年間を通じて安定的に生産される牧草（飼料）を利用した肉用牛の繁殖経営が盛んである。

耕種作物では、さとうきび、にがうり（ゴーヤー）、パインアップル、マンゴーなどの品目が収穫量全国第1位となっている。特にさとうきびの生産は地域農業だけでなく離島を中心に地域経済を支えている。

また、豊富な海洋資源に恵まれ、まぐろ等の回遊性魚類を対象とした漁業や、もずく類等の海面養殖業が盛んである。

沖縄県は、地理的条件により水不足に悩まされていたが、国営かんがい排水事業により地下ダム等のかんがい施設を整備することで、高収益作物の導入を拡大している。

具体的には、温暖な亜熱帯性気候を活かし、他地域では端境期となる冬春期にいんげん、かぼちゃ、ピーマン等を県外に出荷することで野菜の国内での安定供給に貢献している。ブランドの確立にも力を入れており、令和5年度には「ぐしちゃんピーマン」及び「中城（なかぐすく）島にんじん」がGI（地理的表示）に登録された。

また、地域ごとの土壌の性質等の違いも活かし、島野菜（島ニンジン、島らっきょう等）や熱帯果樹（マンゴー、パインアップル等）など多種多様な品種の生産が県内各地で行われている。特色ある野菜、果樹等の生産により、県民需要やコロナ禍を乗り越え回復しつつある豊富な観光需要への対応を目指している。

## 主な農林水産物

### さとうきび

沖縄県内のほぼ全域で栽培されている基幹作物である。栽培面積収穫量ともに全国の過半数を占める。（栽培面積・収穫量全国第1位）



### パインアップル

本島北部地域や八重山地域で生産される。近年「ゴールドバレル」等、新品種のブランド化に取り組んでいる。（収穫量全国第1位）



### シークワサー

沖縄県の特産果樹。本島北部を中心に生産され、ほとんどが加工用として利用される。（収穫量全国第1位）



### 肉用牛（子牛）

年間を通じて安定的に生産される牧草（飼料）を利用した繁殖経営が主。肥育経営も全国トップレベルのブランド牛を生産。（黒毛和種子牛取引頭数全国第4位）



### もずく類（養殖）

沖縄県の養殖業の中で最も多く収穫されている。全国の収穫量のほぼ全てが沖縄県産である。（収穫量全国第1位）



### にがうり（ゴーヤー）

冬春期に全国に供給される主力野菜。本島南部地域を始め県内各地で生産され、収穫量は全国の約4割を占める。（収穫量全国第1位）



### マンゴー

近年増加している主力の果樹。宮古島市・石垣市・豊見城市（とみぐすくし）など県内各地で生産され、収穫量は全国の過半数を占める。（収穫量全国第1位）



### きく

春期に全国に供給される主力花き。糸満市やうるま市を始め本島を中心に生産され、出荷量は全国の約2割を占める。（出荷量全国第2位）



### まぐろ類

沖縄県の中で最も多く漁獲されている。多くは冷凍せずに生鮮のまま水揚げされている。（漁獲量全国第5位）



### くるまえば（養殖）

もずくと並び沖縄養殖業の主力製品のひとつである。収穫量は全国の3割以上を占める。（収穫量全国第1位）



# 沖縄県県内の各地域における農林水産物

## 中部地域

【農畜産物】さとうきび、肉用牛、さやいんげん、オクラ、にんじん、マンゴー天草（かんきつ類）、びわ、花き（きく等）、かんしょ、グアバ  
 【水産物】アーサ（養殖）、ソデイカ、もずく類（養殖）

## 南部地域

【農畜産物】さとうきび、肉用牛、さやいんげん、ゴーヤー、レタス、オクラ、かぼちゃ、にんじん、ピーマン、トマト、きゅうり、マンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ、花き（きく等）、かんしょ、ウコン、スターフルーツ  
 【水産物】まぐろ類、くるまえび（養殖）ソデイカ、もずく類（養殖）

## 北部地域

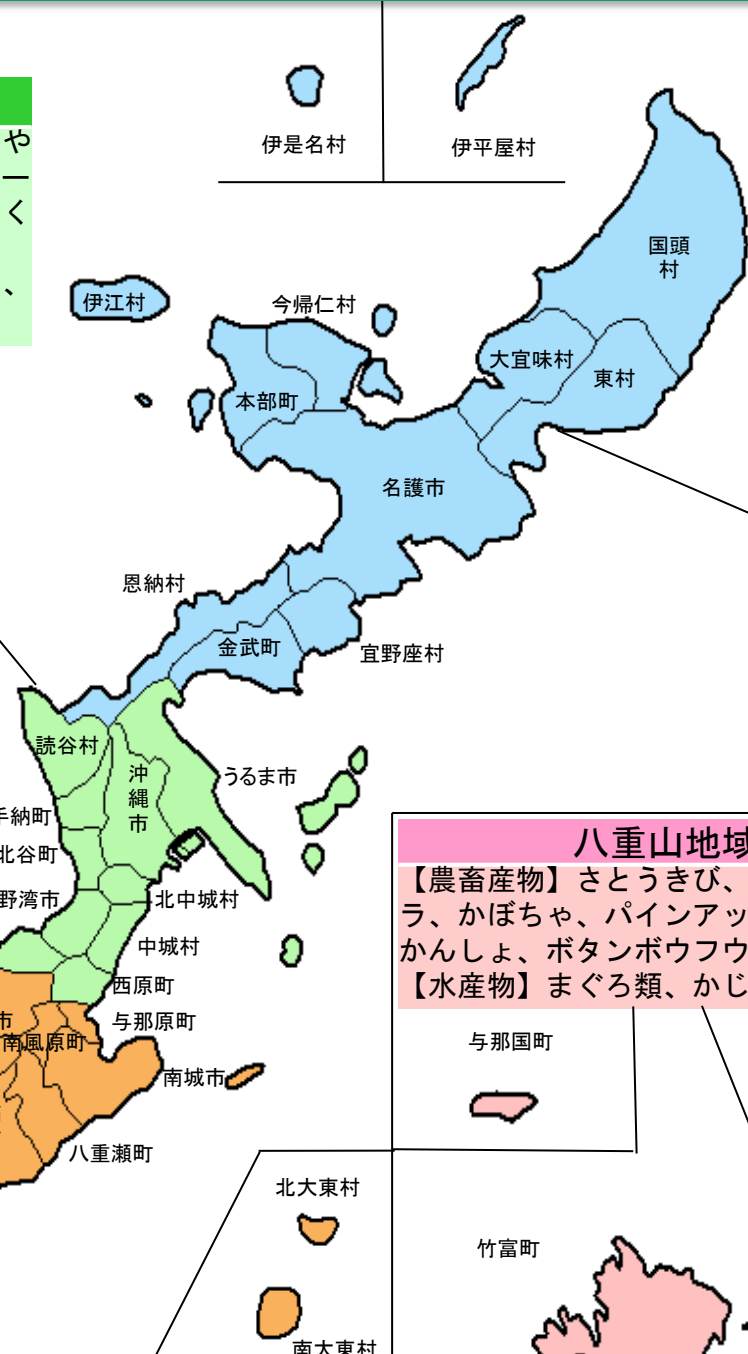
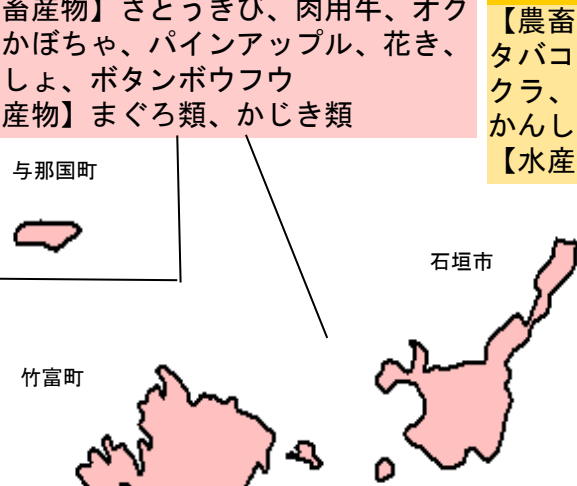
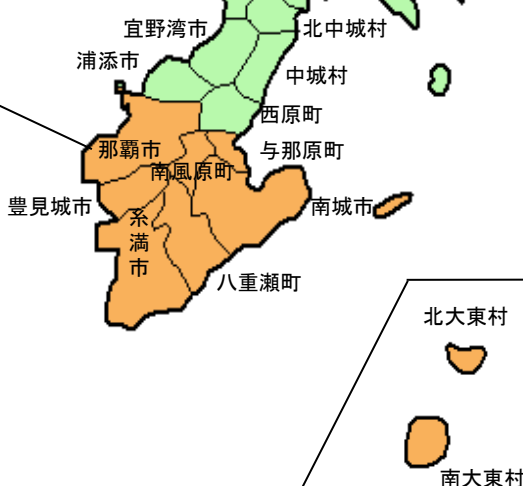
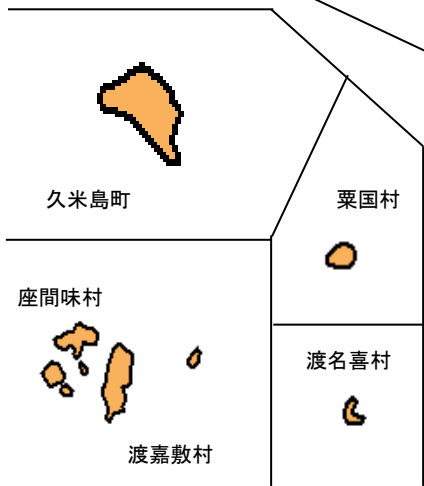
【農畜産物】さとうきび、肉用牛、豚、ゴーヤー、ばれいしょ、かぼちゃ、とうがん、島らっきょう、すいか、マンゴー、パッションフルーツ、タンカン、シークワサー、パイナップル、アセローラ、アテモヤ、花き（きく等）、かんしょ、ウコン  
 【水産物】もずく類（養殖）、海ブドウ（養殖）、アーサ（養殖）

## 八重山地域

【農畜産物】さとうきび、肉用牛、オクラ、かぼちゃ、パイナップル、花き、かんしょ、ポタンボウフウ  
 【水産物】まぐろ類、かじき類

## 宮古地域

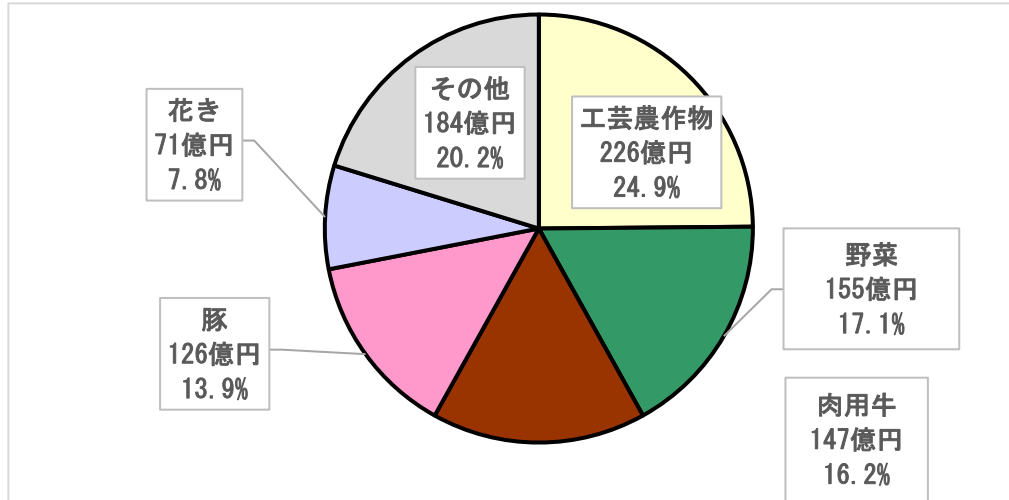
【農畜産物】さとうきび、肉用牛、葉タバコ、さやいんげん、ゴーヤー、オクラ、かぼちゃ、とうがん、マンゴー、かんしょ  
 【水産物】かつお類、アーサ（養殖）



# 沖 縄 県 の 農 業 ( 1 )

- ・ 農業産出額は909億円で全国35位。うち米が5億円(0.6%)、野菜が155億円(17.1%)、畜産が367億円(40.4%)。
- ・ 農畜産物の生産状況は、さとうきび、パインアップル、シークワサー、マンゴー、にがうり、とうがんで全国1位。

## 農業産出額の概略



## 農畜産物の生産状況

区 分	年次	沖 縄 県	全 国	全国順位
さとうきび	収穫量	R6 845,200 t	1,405,000 t	1
パインアップル	収穫量	R6 7,100 t	7,100 t	1
きく	出荷量	R6 177,300 千本	1,111,000 千本	2
肉用牛	飼養頭数	R7 75,300 頭	2,595,000 頭	9
豚	飼養頭数	R6 184,500 頭	8,798,000 頭	14
シークワサー	収穫量	R5 3,006 t	3,007 t	1
タンカン	収穫量	R5 239 t	2,755 t	2
マンゴー	収穫量	R5 2,041 t	3,803 t	1
にがうり	収穫量	R4 5,910 t	16,200 t	1 *
とうがん	収穫量	R4 2,340 t	8,140 t	1

出典: 「作物統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計」、「特産果樹生産動態等調査」、「地域特産野菜生産状況」

## 農業産出額のデータ

区 分	沖縄県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	909 億円 (100.0)	107,801 億円 (100.0)	35
米	5 億円 (0.6)	25,524 億円 (23.7)	46
麦類	x 億円	582 億円	- *
雑穀	0 億円	87 億円	26
豆類	0 億円	621 億円	38
いも類	7 億円	2,565 億円	31
野菜	155 億円 (17.1)	25,510 億円 (23.7)	38
果実	70 億円 (7.7)	10,112 億円 (9.4)	33
花き	71 億円	3,423 億円	15
工芸農作物	226 億円	1,577 億円	3
その他作物	x 億円	583 億円	- *
畜産	367 億円 (40.4)	36,654 億円 (34.0)	28
肉用牛	147 億円	7,861 億円	15
乳用牛	31 億円	10,035 億円	35
生乳	30 億円	8,937 億円	34
豚	126 億円	7,567 億円	19
鶏	60 億円	10,170 億円	33
鶏卵	42 億円	5,764 億円	31
ブロイラー	17 億円	4,259 億円	29 *
その他畜産物	4 億円	1,021 億円	15
加工農産物	1 億円	565 億円	33

出典: 「令和6年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和6年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」  
注: ( ) は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和8年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「O」: 単位に満たないもの(例:0.4t→0t)

「-」: 事実のないもの

「…」: 調査を欠くもの

「x」: 秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「\*」: 秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

# 沖 縄 県 の 農 業 ( 2 )

- ・耕地面積は3万5,900haで全国35位。うち田が751ha、畑が3万5,200ha。
- ・農業経営体数は9,522経営体で全国40位。うち法人経営体数が494経営体で30位。
- ・国、市町村認定及び都道府県認定経営体数は1,009経営体で全国45位。うち法人数が209法人で43位。
- ・農業生産関連事業は、農家レストランの年間販売（売上）金額が15億円で全国6位、事業体数は10事業体で42位。

## 耕地面積

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
耕地面積	35,900 ha	4,272,000 ha	35
田	751 ha	2,319,000 ha	46
畑	35,200 ha	1,952,000 ha	12
普通畑	27,300 ha	1,118,000 ha	10
樹園地	1,940 ha	248,600 ha	37
牧草地	5,890 ha	585,900 ha	4
参考) 総土地面積	2,282.11 km <sup>2</sup>	377,979.74 km <sup>2</sup>	44

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和8年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

## 荒廃農地面積

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	3,579 ha	256,667 ha	26

出典：「令和6年度の荒廃農地面積(令和7年3月31日現在)」

## 農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
農業経営体数	9,522 経営体	836,054 経営体	40
法人経営体数	494 経営体	33,819 経営体	30
総農家数	13,270 戸	1,394,135 戸	43
販売農家数	8,906 戸	792,808 戸	40
参考) 世帯総数	614,708 世帯	55,830,154 世帯	25
集落営農数	7 集落営農	13,952 集落営農	43

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和7年集落営農実態調査結果(令和7年2月1日現在)」

## 担い手への農地の集積状況

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	10,579 ha	2,627,068 ha	37
集積率	29.5 %	61.5 %	38

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和6年度版)」

## 基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	9,873 人	1,036,228 人	40
男	7,433 人	659,332 人	38
女	2,440 人	376,896 人	40
65歳以上	6,424 人	721,311 人	41
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	65.1 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	1,009 経営体	212,136 経営体	45
法人数	209 法人	29,684 法人	43
参考) 人口総数	1,467,480 人	126,146,099 人	25

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和7年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

## 農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位	
農産加工	総額	7,698 百万円	1,006,107 百万円	36
	事業体数	180 事業体	26,910 事業体	45
農産物直売所	総額	17,447 百万円	1,134,381 百万円	30
	事業体数	90 事業体	20,960 事業体	47
観光農園	総額	424 百万円	39,113 百万円	27 *
	農業経営体数	20 経営体	4,350 経営体	43
農家民宿	総額	67 百万円	4,933 百万円	18 *
	農業経営体数	10 経営体	770 経営体	20
農家レストラン	総額	1,488 百万円	39,900 百万円	6 *
	事業体数	10 事業体	1,390 事業体	42

出典：「令和6年度6次産業化総合調査結果」

# 沖 縄 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は5.8億円で全国44位。うち木材生産が0.1億円、栽培きのこ類生産が5.6億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国47位、くろあわびたけが全国2位、黒炭が8位。

## 林業産出額

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
林業産出額	5.8 億円	4,769.8 億円	44
木材生産	0.1 億円	2,369.4 億円	47
栽培きのこ類生産	5.6 億円	2,322.7 億円	37

出典：「令和6年林業産出額」

## 林野面積

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
林野面積	114,586 ha	24,744,214 ha	42
国有林	31,741 ha	7,117,059 ha	25
民有林	82,845 ha	17,627,155 ha	44
人工林面積	12,028 ha	10,059,386 ha	47

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」

## 林業経営体数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
林業経営体数	6 経営体	23,300 経営体	47
法人経営体数	6 経営体	3,813 経営体	47

出典：「2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)」

## 林産物の生産状況

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
素材生産量	1 千m <sup>3</sup>	19,763 千m <sup>3</sup>	47
針葉樹	0 千m <sup>3</sup>	18,398 千m <sup>3</sup>	47
広葉樹	1 千m <sup>3</sup>	1,365 千m <sup>3</sup>	42
くろあわびたけ	生産量 14 t	100 t	2 *
生きくらげ類	生産量 x t	1,693 t	- *
黒炭	生産量 42 t	3,301 t	8 *
薪	生産量 355 層積m <sup>3</sup>	99,161 層積m <sup>3</sup>	32

出典：「令和6年木材統計」、「令和6年特用林産基礎資料」

## 製材工場数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
製材工場数	3 工場	3,547 工場	47
製材用素材の入荷があった工場数	3 工場	3,492 工場	47
国産材のみ	2 工場	3,013 工場	47
国産材と輸入材	1 工場	386 工場	37

出典：「令和6年木材統計」

# 沖 縄 県 の 水 産 業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は188億円で全国22位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のびんながが全国3位、まぐろ類が5位、海面養殖業のもずく類、くるまえびが1位。
- ・ 漁業生産関連事業は、漁家レストランの年間販売（売上）金額が9億円で全国7位、事業体数は30事業体で1位。

## 漁業産出額

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	188 億円	14,785 億円	22
海 面 漁 業	114 億円	8,894 億円	21 *
海 面 養 殖 業	74 億円	5,891 億円	18 *

出典：「令和6年漁業産出額」

## 漁業経営体数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	2,658 経営体	65,662 経営体	6
内水面漁業経営体数	2 経営体	4,076 経営体	47

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

## 漁業就業者数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	3,268 人	121,389 人	13
男	3,167 人	109,757 人	13
女	101 人	11,632 人	22

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

## 漁船隻数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
漁船隻数	2,874 隻	109,284 隻	15
動力漁船	1,872 隻	58,907 隻	12

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

## 水産物の生産状況

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	32,254 t	3,589,121 t	24 *
海面漁業漁獲量	13,502 t	2,786,195 t	30
びんなが	3,882 t	26,849 t	3 *
まぐろ類	8,205 t	122,648 t	5 *
海面養殖業収穫量	18,752 t	802,927 t	16 *
もずく類	17,181 t	17,232 t	1
くるまえび	450 t	1,383 t	1 *
内水面漁業・養殖業生産量	x t	47,046 t	- *
内水面漁業漁獲量	- t	17,915 t	-
内水面養殖業収穫量	- t	29,131 t	-

出典：「令和6年漁業・養殖業生産統計」

## 漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	沖 縄 県	全 国	全国順位	
水産加工	総額	3,336 百万円	193,147 百万円	14
	事業体数	30 事業体	1,160 事業体	9
水産物直売所	総額	1,134 百万円	34,259 百万円	11 *
	事業体数	40 事業体	780 事業体	5
漁家民宿	総額	151 百万円	5,440 百万円	11 *
	漁業経営体数	30 経営体	540 経営体	3
漁家レストラン	総額	928 百万円	13,511 百万円	7 *
	事業体数	30 事業体	380 事業体	1

出典：「令和6年度6次産業化総合調査結果」

# 沖縄県の農林水産業の話題等（1）

## 地理的表示（GI）品目の登録拡大



沖縄県内において、地理的表示（GI）の登録に向けた取組が活発である。

令和6年8月には、琉球王朝時代からの伝統菓子をルーツとした、サクサクとした食感と口溶けの良さを併せ持つ焼き菓子で、県内で生産される「ちんすこう」がGIに登録された。GIに菓子類が登録されるのは国内で初めてである。また、令和7年11月には、県内で栽培したサトウキビのみを原料とし、約400年前から製造されている伝統的なお茶菓子である「沖縄黒糖」が登録された。これまでも「琉球もろみ酢」（平成29年11月）、「ぐしちゃんピーマン」（令和6年1月）、「中城島にんじん」（令和6年3月）が登録されている。

GIの登録は、地域と結び付いた製品の品質、製法、評判、ものがたりなどの魅力や強みが見える化ができる。そのため、特有の気候・風土の下、全国的にも独自の食文化や農林水産物・食品が多く存在している沖縄県では、GI制度の関心が高い。地域で守り育ててきた地域ならではの製品のブランド力を、海外からの多くの観光客にも通用する形で強化していくため、GI品目の登録拡大が期待されている。



▲ちんすこう



▲沖縄黒糖

## 県産原料を用いた酒類の開発

沖縄県内において、県産品を原料とした酒類の開発の動きが相次いでいる。

平成30年から開始された「琉球泡盛テロワールプロジェクト」では、JAおきなわ等が泡盛メーカー各社と連携し、泡盛の原料用米を県内で生産している。伊平屋島（いへやじま）及び伊是名島（いぜなじま）で生産された原料米を使用して製造された泡盛は、輸出も視野に入れ、古酒とするために熟成中であるほか、一部は新酒として販売され好評を得ている。

県産さとうきびを原料としたラム酒を製造する動きも広がりつつある。（株）伊江島物産センターが伊江島産さとうきびから製造したラム酒は、「東京ウイスキー&スピリッツコンペティション2023」において「ベスト・ジャパニーズラム」を受賞するなど高い評価を受けており、海外にも販路を拡大している。このほか瑞穂酒造（株）が主催する「ONERUM」プロジェクトでは、県内の離島8島で製造された黒糖を原料としたラム酒を製造しているなど、県産原料を利用することでより付加価値を高めた商品の開発が進んでいる。



▲伊是名島での泡盛原料米収穫の様子



▲伊江島産さとうきびから作られたラム酒



▲県産米を使用した泡盛



▲伊江島蒸留所のラム酒熟成樽

# 沖縄県の農林水産業の話題等（2）

## 沖縄の農業を支える「国営かんがい排水事業」

沖縄県は地理的条件により昔から水不足に悩まされていたが、地下ダム等の水源整備により、沖縄県の農業は大きく変化した。水源整備のおかげで安定的・計画的な水利用が可能となったことから、基幹作物のさとうきび生産の安定化のみならず、多種多様な農作物の栽培が可能となった。国営かんがい排水事業は羽地大川地区、沖縄本島南部、伊江、伊是名等で実施され、現在は宮古島と石垣島で実施している。

また、令和8年度から多良間島でも国営かんがい排水事業が始まる。多良間島は、宮古島と石垣島のほぼ中間に位置しており、さとうきびを中心とした農業経営が展開されている。しかし、島内には河川がなく、農業用水は降雨に依存しているため、不安定な農業経営や農業生産性の向上が営農上の課題となっている。この現状を改善するため、国営事業により集水池等の水源整備を行うことで農業用水の安定供給を図りつつ、関連事業により畑地かんがい施設の整備を進める予定となっており、地元の農家もこの事業に大きな期待を寄せている。

このように、国営かんがい排水事業は沖縄の農業を大きく発展させており、これからも沖縄の農業を支える大切な存在である。

## OIST発スタートアップ企業の農林水産・食品分野における活躍

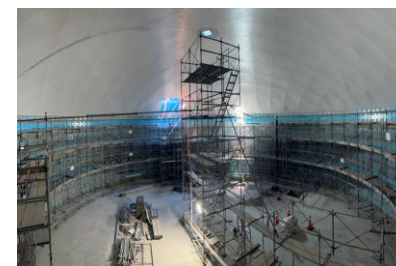
世界最高水準の研究大学を目指して平成23年に設立されたOIST（沖縄科学技術大学院大学）では、大学発スタートアップ企業の創出支援も積極的に行っており、農林水産・食品分野においても社会的インパクトのある新事業を創出したスタートアップ企業が次々と生まれ、成果を出している。

その1つであるEF Polymer（株）では、独自技術により、農産物残さ（かんきつ類や海藻類など）を原料とする完全生分解性の「超吸水性ポリマー」を開発し、国内外で事業展開を行っている。本資材を農地に散布することで土壌の保水力・保肥力が向上し、収量の増加や肥料コストの低減等に効果があるとされており、各地の農業者等から注目を受けている。令和5年8月には、沖縄県内の事業者として初めて、農林水産大臣からみどりの食料システム法に基づく基盤確立事業実施計画の認定を受けた。

また、同じくOIST発のスタートアップ企業であるWatasumi（株）は、小規模ながらも有機物を含む排水を高効率で浄化処理できる装置を開発し、県内外の食品・飲料メーカーへ事業展開を行っている。本装置の稼働に必要な電力の一部は、浄化処理過程で発生するメタンガスを活用したバイオマス発電により自ら賄うことができるため、今後は電力確保が難しい離島でも導入が進むことが期待されている。



▲地下ダム建設（宮古島）



▲配水池建設（石垣島）



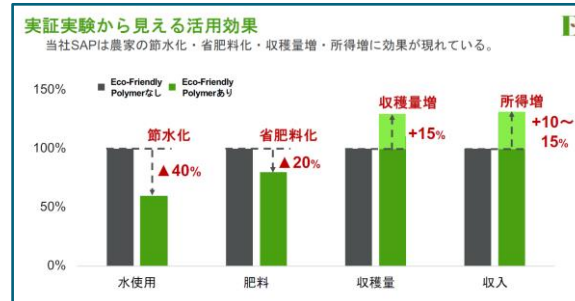
▲多良間島の全景



▲多良間島のさとうきび畑



▲EFポリマー



▲EFポリマーの効果（EF Polymer社調べ）



▲ Watasumi（株）の製造した排水処理装置